

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域密着型サービスの役割を反映させた事業所独自の運営理念を職員全員で構築している。	○ ・今まで以上に地域に根ざしたサービスが提供できるように理念を見直し構築していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎日、申し送り時に理念を唱和している。	○ ・理念は職員全員が目指す物である事を理解し、毎日唱和することで理念に基づいたケアを実践していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・ホール内の見やすい場所に運営理念を掲示している。また、広報誌に掲載し、家族や地域に配布している。	○ ・継続して取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	・散歩の時に地域の方にあった時には、職員自ら挨拶をするように心がけている。 ・地域内の神社のお祭りや盆踊り大会などに参加している。 ・運営推進会議を開催し、町内会長や民生委員と意見交換をしている。 ・地域の中学生のボランティアを受け入れしている。	○ ・町内会へ加入申込み中であるため、加入後は積極的に活動へ参加し、地域への理解を深めていきたい。 ・町内会長や民生委員を通じて、地域に係わりの多い方々との連携を構築し、地域に貢献していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と外部評価について勉強会を開催し、説明している。 職員ミーティングで、結果を共有し、改善に向けて話し合っている。 	○ <ul style="list-style-type: none"> 職員一人ひとりが、自己評価を行うことで、業務の見直しだけでなく、ケアやホーム運営などの総合的な視点で判断をする材料として活用していきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議で、自己評価の改善点と改善策を説明している。また、外部評価の結果を配布、説明し、意見交換をしている。 	○ <ul style="list-style-type: none"> メンバーになっている家族からの意見や提案を、メンバー以外の家族へ伝える手段が無いため、整備していきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 市町村へパンフレットや広報誌を定期的に配布している。 こちらから役場へ出向き情報交換を行ったり、電話で相談したり、積極的に機会作りをしている。 	○ <ul style="list-style-type: none"> 新しい広報誌ができた時には職員が配布するなど、管理者だけではなく、職員も接する機会を増やし、ホーム全体として取り組んでいきたい。 グループホーム協議会を通じて、積極的に意見交換をできる機会を増やしていきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 権利擁護に関する内容の研修に参加しているが、実際に活用した事例はない。 	○ <ul style="list-style-type: none"> 権利擁護に関する事例のビデオを見る等、勉強会を開催し更に理解を深めていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 外部の研修に参加しているが、職員各々が、虐待防止に対する理解が十分であるとは思わない。 	○ <ul style="list-style-type: none"> 勉強会を開催し、更に理解を深めると共に、発見して時の対応方法や報告の流れなどの取決めを行いたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・その都度十分な説明を行い、理解した上で、契約書に署名、捺印をして頂いている。 ・退所時には退所先への情報提供を詳細に行っている。	○	・利用者や家族の立場に立って考慮し、説明したり対応していきたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・直接職員へ話したり、事務所で管理者へ話す場面もあり、日常生活の中で話す機会は設けている。 ・個人記録で、利用者が話した事を記載し、職員全体で情報の共有をし、職員会議、カンファレンスにて、対応策を検討している。	○	・利用者にも運営推進会議へ参加してもらうように促したい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・毎月、生活の様子やホームからの連絡事項などを記載したホーム便りを作成し、配布したり、面会時に説明を行っている。 ・毎月明細書の一覧を作成し、領収書を添付し報告している。	○	・継続して取り組んでいきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・事業所の玄関に苦情箱と用紙を設置し、家族へも説明している。 ・外部の窓口に関しては、重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。	○	・定期的にサービスに関するアンケート調査を実施し、積極的に要望や意見を引き出していきたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月1回ミーティングを行って、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、それに基づき全員で検討し実践している。	○	・継続して取り組んでいきたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・行事がある時など勤務時間の変更を行っている。 ・夜間にケアが必要な入居者には、「サービス計画書を作成し、確実にしている」。	○	・継続して取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・担当職員が変更する時には、詳細に引継ぎを行っている。 ・新しい職員を配置した時には、必ず自己紹介をし、1日を通してコミュニケーションをとる時間を作っている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・配置換えは無いに等しいが、離職による職員の異動に関して原因や対策を検討していきたい。
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・処遇委員会が勉強会の年間計画を立てている。 ・全職員が勤務として外部研修に参加できるような体制を作っている。 ・外部研修後、勉強会にて伝達し、実践に生かすようにしている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修を受ける機会を増やし、職員一人ひとりのスキルアップを目指していきたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループホームと合同で行事を行ったり、夏祭りなどに積極的に参加している。 ・複数のグループホームで職員の忘年会を実施し、職員間の交流を深めている。 ・グループホーム協議会に加盟し、積極的に活動に参加している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取組んでいきたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に職員とのコミュニケーションの時間を大切にしている。また、職員の話聞く配慮ができています。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取組んでいきたい。
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回健康診断を行っている。 ・運営者が定期的にホームへ来て、職員の勤務状況を把握している。 ・就業規則を作成している。 ・全職員が有資格者であるが、更に資格取得を目指し努力している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・サービス利用の相談があった時には、直接家族と話し合いを行っている。 ・早急に入所を希望し、当ホームが満床の場合は、空いている事業所を探し、紹介するように対応している。	○ ・継続して取組んでいきたい。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時のニーズを把握し、どのようなサービスが必要か判断している。 ・他のサービスが必要な時には、担当ケアマネージャーと相談し対応している。	○ ・継続して取組んでいきたい。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・サービスを利用するにあたり、利用者や家族に説明し納得の上で、生活状況や人間関係などのアセスメントを詳細に行っている。 ・安心して生活に馴染めるように、交流の場を設けたり見守りを行っている。	○ ・継続して取組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職歴や生活暦を基に生活の中でお互いに学ぶ機会を作っている。 ・グループワークを通じて喜怒哀楽を共有している。	○ ・その日と自身をよく理解するためにも、再度情報を見直したり、会話の中から気付きを増やし、職員全員で共有し実践していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会時や電話で情報を共有し、一緒に支え合う関係を築いている。	○	・面会の機会の少ない家族には、家族参加の行事を増やす等、本人と会う機会を増やしていきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・毎月ホーム便りにて生活の様子を伝えている。疎遠の家族に対しては、行事への参加や面会などを書面にて促している。 ・病院受診の際に家族に付き添いを依頼したり、極力面会の機会を増やすようにしている。	○	・継続して取組んでいきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居時のアセスメントで馴染みの人や場所を把握している。また、場所や人を写真に撮り、情報を共有している。 ・年賀状や暑中見舞いを出している。 ・自宅や自宅付近へドライブに出かけたりしている。	○	・継続して取組んでいきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・共同生活において、役割や生きがいを持ちながら協力して生活できるように支援している。 ・トラブルになりそうな時には、職員が対応し、良好な関係が保たれている。	○	・継続して取組んでいきたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・困った事があったら連絡して頂くように、退所時に説明している。 ・担当ケアマネージャー等にも連絡を取り、状況の把握に努めている。	○	・継続して取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・センター方式にてアセスメントを行い、利用者の言動からニーズを把握して、本人の立場に立ったケアプランを作成している。 ・面会時などに、その都度情報収集をし、職員で共有している。	○ ・ニーズの変化をいち早くに捉えるために、より詳細に日常の言動を記録する体制を整えたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に家族へ説明し、出来るだけ利用者のライフスタイルを把握できるように情報収集を行っている。また、その際は事務所で行い、プライバシーに配慮している。	○ ・継続して取組んでいきたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・毎日の生活パターンを記録し、職員が情報を共有している。また、申し送りをする事で、総合的に把握するように努めている。 ・生活訓練等の活動を通じて、各入居者の能力の把握に努めている。	○ ・継続して取組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・3ヶ月毎にセンター方式によるアセスメントを行い、個別に介護計画を作成している。 ・カンファレンスにおいて、スタッフ間で意見・情報交換を行っている。 ・面会時や、ケアプラン説明時に家族から意見を聞いている。	○ ・家族だけでなく、昔からの友人や馴染みのある方からの情報等も参考にし、介護計画に結び付けていきたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・3ヶ月毎にアセスメントをして介護計画を見直しているが、状態やニーズに変更があった時には、その都度新しい介護計画を作成している。	○ ・継続して取組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の生活の様子や気付きを具体的に記録し、情報を共有している。 ・その情報を基に、アセスメントを行っている。	○	・個別に記録はしているが、意思表示のできない利用者の情報が少ない為、改善に向け取り組みたい。
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族が受診の付添いや外出に対応出来ない時には、職員が付添って支援している。 ・家族の介護の負担を軽減するため、訪問診療を行っている。また必要時には訪問看護を利用している。	○	・地域のニーズを引き出す機会を増やし、積極的に取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・定期的に地域の図書館を利用している。 ・年に2回広報誌を発行した際に、警察や消防、保育園、小・中学校、介護施設へ配布し、理解を求めている。 ・消防隊員の指導のもと、消防訓練を実施している。	○	・家族ボランティアを募集したり、地域のボランティアを活用し協力体制を強化したい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・担当ケアマネジャーと連絡を取り、情報交換を行っている。	○	・職員全員で地域の社会資源を把握し、他のケアマネジャーやサービス事業者との連携を深めていきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターとの協力体制はあまりない。	○	・必要な時に気軽に相談できるように、日頃から連絡体制を密に行っていききたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に受診状況を確認し、利用者や家族が希望する医療機関に受診するようにしている。 ・協力医療機関やかかりつけ医にはその都度相談できる体制である。 ・受診状況は毎月のホーム便りにて家族へ報告している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取組んでいきたい。
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関に認知症に詳しい医師を確保している。また、いつでも相談できる体制である。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取組んでいきたい。
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療や訪問看護を利用して、日常の健康管理や医療の活用を実施している。 ・24時間オンコール体制をとっている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師を配置し、医療連携体制を整備していきたい。
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> ・入院先の病院と電話で連絡を取ったり、お見舞いの際に看護師より状況を確認し、家族と連絡を取っている。また、病院から家族へ連絡があった時には直ぐに連絡を頂くように話している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取組んでいきたい。
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合や終末期は、適切な医療機関への入院や他の入所施設への入所に向けて支援を行うことを入居時に説明している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師を配置し、重度化や終末期へのニーズにも対応していきたいと考えている。
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化や終末期には対応していない。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師を配置し、重度化や終末期へのニーズにも対応していきたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取組んでいきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会を開催し、個人情報の取り扱いについての正しい知識を身につけ、実践に活かしていきたい。
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取組んでいきたい。
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・再度業務を見直し、利用者のニーズに柔軟に対応できる体制を整備していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事配膳後にメニューを読み上げている。 ・職員も一緒に食事をしたり、食事介助の職員が楽しい雰囲気作りを行っている。 ・個々の能力に応じて食事の準備や後片付けを一緒に行っている。	○	・食べたい物に対してのニーズの引き出しを増やし、メニューに反映させていきたい。 ・会話のある楽しい雰囲気作りを継続して行っていきたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・利用者一人ひとりの嗜好品を把握し、食事のメニューに取り入れている。 ・外出先での食事は好きな物を食べるように支援している。	○	・継続して取組んでいきたい。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄記録にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立や保清についてカンファレンスで話し合い実践している。	○	・継続して取組んでいきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴日は決まっているが、利用者が希望する時間に入浴できるようにしている。また、入浴日以外に入浴希望がある場合も対応できる体制である。	○	・再度、利用者から入浴に対しての希望や要望などを聞き、個別に対応できるように検討したい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・睡眠記録にて睡眠パターンを把握している。 ・快適に安眠できるように、入浴日以外の毎日、足浴を行っている。	○	・昼夜逆転をしている利用者はいないが、居ることを想定した支援についても検討していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・入居時に利用者や家族より情報を聞き、ある程度は把握している。 ・カンファレンスにて、一人ひとりに合った役割などを話し合い、職員間で情報を共有し、実践している。	○	・利用者一人ひとりの趣味などの楽しみを、継続的にチームで対応できる業務体制を整備したい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自分で金銭管理をしている利用者は、起床時と就寝時に職員と一緒に金額の確認を行っている。 ・買い物代や食事代は自分で支払いを行うように支援している。	○	・継続して取組んでいきたい。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・職員の外出の機会があれば、気分転換も含めドライブ等を行っている。 ・毎月のグループワークにて散歩やドライブの機会を設けている。 ・個別に外出の希望がある時には、出来るだけ希望に沿うように対応している。	○	・今以上に外出の機会を増やしたり、希望にそって安全に外出できるような体制を見直し、実践に結びけたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・日常的な会話から引き出している。 ・行事等で家族と一緒に外出する機会を設けている。	○	・家族と一緒に一泊旅行ができるような行事を計画し、実現してみたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の希望がある時には、ホームの電話で対応している。また、必要に応じて介助をしている。 ・年賀状や暑中見舞いを出している。	○	・継続して取組んでいきたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会の際には、プライバシーに配慮し、お部屋で過ごして頂く様に促している。その際、テーブルと人数分の椅子を準備し、お茶を出してもてなしている。	○	・継続して取組んでいきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・外部研修を受講している。 ・身体拘束を行った事例はないが、必要な場合の対応方法は職員が理解している。	○	・勉強会を開催し、身体拘束について理解を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関の鍵は、夜間帯の決められた時間以外は開錠している。 ・玄関にセンサーを取り付け対応している。 ・居室のドアに鍵はついていない。 ・日常的に散歩に行き、地域の方に入居者の顔を覚えてもらうようにしている。	○	・継続して取り組んでいきたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・常に利用者の所在や様子を確認、把握し、職員同士で連携しあう体制になっている。	○	・職員同士で利用者の所在を確認する事になっているが、更に徹底して行いたい。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・保管場所に関して取り決めがあり、環境委員会にて管理している。	○	・継続して取り組んでいきたい。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・個々の利用者において、日常的に想定されるリスクを話し合い、対応できるように心がけている。 ・リスクマネジメントに関する勉強会を実施している。	○	・行方不明時の対応について不備な点が多い為、マニュアルなどを整備していきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時の対応マニュアルがあり、緊急時でも見やすいように掲示している。 ・救急救命などの講習を受けている。	○	・全職員が定期的に救急救命の講習を受けるように計画を作成し、実施したい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・日中・夜間を想定し、利用者参加による避難訓練を実施している。 ・消防隊員の指導の下で消防訓練を実施し、協力体制を構築している。 ・日頃より地域の消防団と交流がある。	○	・地域の方を交えての消防訓練を開催し、協力体制を強化していきたい。 ・非常袋を購入し、万が一の時にも対応できるように備えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・起こりうるリスクに関して、面会時、ホーム便り、電話等で家族へ説明し、理解を得ている。 ・ケアカンファレンスにてリスクの対応策を話し合い、全職員で情報を共有している。	○	・継続して取組んでいきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・日常的に顔色や表情を観察し、早期発見できるように心がけている。 ・体調の変化があった時には、記録にて申し送りをし、職員で情報を共有している。また、必要に応じて医療機関の受診をしている。	○	・継続して取組んでいきたい。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の内容をファイリングしており、いつでも確認できる体制にある。 ・カンファレンス時に確認し、職員間で情報を共有している。	○	・定期的に勉強会を開催し、新しく処方になった薬などについて学ぶ機会を設けたい。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・便秘の原因を理解し、出来るだけ服薬しないで排便できるように支援している。 ・牛乳を提供したり、運動を促す等の対応を行っている。	○	・勉強会を開催し、便秘時の対応について理解を深めていきたい。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、個々の状態に応じた支援を行っている。	○	・継続して取組んでいきたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・おおよそのカロリーを計算し、管理栄養士の指導の下でメニューを作成している。 ・水分・食事摂取量の管理が必要な方は記録をしている。	○	・食事摂取量や栄養バランスを確認し、メニューを見直していきたい。 ・メニュー表にカロリーを表示し、常に把握できるように改善したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・感染症の予防・対応マニュアルがある。 ・外部研修に参加したり、マニュアルに基づき勉強会を行っている。 ・インフルエンザに関する情報を家族へ文書で通知している。	○	・感染症の流行する時期に合わせ勉強会を実施し対応策や予防策を再確認できるように取り組み、意識を高めていきたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所や調理器具を清潔に保つ為の取り決めがあり、定期的に清掃を行っている。	○	・食材の管理を徹底して行うように、再度、食事管理委員会を中心に検討していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・花の咲いたプランタを設置したり、季節毎に表札を交換し、明るい雰囲気作りをしている。 ・利用者と一緒に、定期的に玄関清掃を行っている。	○	・冬期は玄関周りが殺風景になる事があるため、改善に向けて検討したい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家庭的な雰囲気に配慮した設備や備品を使用している。 ・日差しが強い時には、カーテンで調整している。 ・季節毎に掲示物を作成し、掲示している。	○	・継続して取り組んでいきたい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホール内にソファを設置し、気の合った利用者同士が座れるスペースを確保している。	○	・継続して取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	・入居時や入居後に、必要に応じて自宅から 馴染みの物品を持ってきてもらうように説明 している。	○	・馴染みの物が少ない利用者もいるため、再 度家族へ説明し、居心地の良い環境を整備し ていきたい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・共有スペースにおいては、定期的に換気を 行っている。 ・各居室へ湿温計を設置し、利用者を確認し てから換気や室温調整を行っている。	○	・継続して取組んでいきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・安全性に考慮した手すりを設置している。 ・車椅子や歩行器を準備している。	○	・ハード面での改善が必要な箇所を見直し、 改善に向けて取組みたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・希望者のみ居室の扉に表札をつけている。 また、トイレや浴室に目印をつけている。	○	・継続して取組んでいきたい。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	・庭に花壇があったり、敷地内に畑を作り、 種まきや苗植え、収穫を行っている。	○	・他に活用できる事がないか見直し取組ん でいきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ② <u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	① <u>ほぼ全ての職員が</u> ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① <u>ほぼ全ての家族等が</u> ② <u>家族等の2/3くらいが</u> ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者と会話をした職員が気付きを記入する記録様式になっており、介護計画を作成するときのアセスメントに関連するようにしている。この事により、実際の記録に基づいた正確なアセスメントができ、より適切な介護計画を作成するように努めている。
- ・管理日誌は独自に作成した様式で、職員が情報を共有できるようになっている。
- ・職員一人ひとりがホーム内での役割を持っており、責任を持って取り組むような体制をとっている。
- ・経営者を含め職員の間関係が良好に保たれており、利用者や他の職員に対しても思いやりを持って対応するように心がけている。
- ・古民家を改装したホームである為、ハード面においても家庭的であり、馴染みやすい。